

講演会 & ライブ な日々 ③⑧

古川 秀明

『自殺防止と健康観察』 第四回(最終回)

※この記事の掲載については、学校長の許可をもらっています。

● 教師からの実践報告

- ① 生徒の様子は見た目だけではわからないので、生徒が正直な気持ちや心身の状態を入力できるシステムは生徒にとってもプラスになるし、教師が生徒を理解するきっかけになっている。
- ② 日頃、生徒たちは本心を教師に伝える機会があまりないことを考えると、「わかってほしい」という思いを持っている生徒の気持ちを汲むことができるようになった。この時、SOSの生徒に丁寧に対応することで、書く意味があると生徒が感じ始めている。
- ③ 入力されている内容が雨や曇りだと、本人の心身の状態が客観的にわかるので、声をかけやすくなった。
- ④ ある日の出来事
心の天気が雨の日がずっと続いている生徒に声をかけると「深刻なことではなくて、単に学校に来るのがめんどくさい」「クラスが嫌だとか、担任がどうだとかいうことではなく、毎日準備をして学校に来るのがめんどくさい。毎日休みやったらいいと思っているだけ」という答えが返ってきた。授業を見る限りでは、そんなことを思いながら登校しているようには見えない生徒なので、その生徒の考えていることを少し知る機会になった。
このように、健康チェックデータを見ることにより、担任でなくても生徒に声をかけることができ、コミュニケーションのネタにもなる。

⑤ 生徒理解や生徒指導に特効薬はなく、小さなことの積み重ねと、その小さなことに丁寧に目を向けるきめ細やかさが徐々に生徒理解につながっていくと思う。毎朝行う健康チェックの取り組みを毎朝のルーティンにさせる働きかけも大切な教師の仕事であるし、生徒が頑張っただけの入力したほんの少しのデータを丁寧に見て、不調な生徒には応えてやろうとする教師の動きは大切なことだと思う。

⑥ SOSボタンを押した生徒に対応すると、自殺に関するものではなかったが犯罪に関わるとても大きな問題で、事前に事なきを得ることができた。

● 保健室からみた問題点

① クラスにより、健康観察が実施できていない生徒が多い場合がある。遅刻生徒や生徒指導面に課題があるクラスは実施率の低い日が続いてしまう。

② 毎日症状を訴える生徒への対応をどうするか。数が多いので、保健室での個別対応が難しい。

③ 担任(や学年教員)が毎日の生活の状況をどこまで把握できているか分かりにくい。

④ 入力しているが反映されない生徒がいたり、ソフト面での不具合の影響を受ける場合がある。

⑤ 欠席の把握がしにくい。

● 導入にあたっての不安

健康観察を使った自殺予防を様々な学校で説明させてもらっています。そのなかで共通した意見を抜粋します。

① この取り組みは効果があり、重要なことは理解できるが、学校では日々、各種アンケートや取り組みがたくさんあり、これ以上何かをやらされるのは正直しんどい。

② SOSボタンが押されていたのに、何か問題が起これば、担任の責任にされそうだしんどい。

③ SOSボタンがたくさん押されたら、その全員に学校が即対応するのは難しい。

これらの不安を聞いていると、いかに今の現場教師が疲弊しているかがわかります。

たった5分という最短の時間で最大限の予防効果を発揮できるのに、その5分が負担になるくらい疲れているという現状があります。

今SOSボタンが一番必要なのは教師かも知れません。

● 令和6年の現状

令和5年4月、タブレットによる「自殺予防健康観察」の取り組みは大規模校である神川中学のみで例外的に許可されていましたが、思いのほかよい流れとなっていることを踏まえ、他の中学でも実施する許可を頂きました。

これで実施してもらえる学校を増やすことができると喜んでいたところ、令和5年7月11日(火)、京都新聞朝刊に、次の記事が掲載されました。



【京都新聞記事の抜粋】

子どもの自殺防止へ学習端末活用を

文科省通知、夏休み明け

*文科省は10日、夏休み明けに子どもの自殺が増える傾向があることから、全児童生徒に配られている学習端末を活用して心身の状態や悩みを把握するなど、各学校が予防に取り組むよう全国の教育委員会などに通知した。

*文科省によると、厚生労働省などの統計では、2022年の小中高校生の自殺は514人で過去最多となった。今年1～5月は暫定値で164人に上り、前年同時期より26人減ったが、高止まりとなっている。

*通知では、夏休み前のアンケート実施や、いじめを訴えている児童生徒らに対して登校日に面談して状況を確認すること、電話相談窓口を周知することを求めた。

*また、端末で使うことができる有効なアプリ一覧も示した。

*子どもが心や体の状態を4段階で自己評価して教員が入力内容を確認できるものや、端末から専門の相談員に匿名で悩みを打ち明けられる機能を備えたものなどを挙げ、導入を推奨した。

| 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進 | | | |
|--|---|--|--|
| 趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> ・ こどもの自殺対策緊急強化プラン（令和5年6月2日） 1人1台端末の活用等により、自殺リスクの把握や適切な支援につなげるため、有償・無償で利用できるシステムやその活用方法、マニュアル等を整理・作成し、全国の教育委員会等に周知し、全国の学校での実施を目指す。 ・ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）（令和5年3月31日） 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進とされており、これらを踏まえ、1人1台端末を活用した児童生徒の心や体調の変化の早期発見や適切な支援につなげるためのシステム・マニュアル等について、下記の通り整理した。 | | |
| 無償 | | | |
| 会社名 | システム名 | 機能 | 機能詳細 |
| Google | Google フォーム | <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 ・ 相談窓口 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート機能（健康観察に活用） ・ 記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・ リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・ Google スプレッドシート等へのデータのエクスポート ・ Google Apps Script を利用したアラート機能等の実装 |
| Google | Looker Studio 【Google】Looker Studio in a minute -YouTube | <ul style="list-style-type: none"> ・ データの可視化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ Google スプレッドシート等のデータソースから表やグラフ等を作成し、データを可視化 ・ データの自動更新や様々なフォーマットのグラフにより、多様な角度からの迅速な分析が可能に |
| Microsoft | Microsoft Forms | <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 ・ 相談窓口 | <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート機能（健康観察に活用） ・ 記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・ リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・ Microsoft Excel へのデータのエクスポート ・ Microsoft Excel のマクロによるアラート機能 |
| Microsoft | Reflect 【Microsoft Teams for Education】 Reflect - YouTube | <ul style="list-style-type: none"> ・ 健康観察 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の質問項目を選択して、アンケートを簡単に作成 ・ 文字だけでなくキャラクターを使った選択肢 ・ 健康観察等に特化し、Microsoft Formsをより簡易に利用 |
| Google フォーム、Microsoft Forms 用いた健康観察・相談窓口の作成方法(リンク) Looker Studio、Reflect の活用事例(リンク) | | | |

2

● みなさまへのお願い

以上のように、京都市教育委員会の許可と文科省の通知により、日本全国地域や校種を問わず、皆さんの学校でもタブレットを使った自殺予防健康観察の取り組みを実施することが可能になっています。

また令和5年9月8日、厚生労働省社会・援護局総務課自殺対策推進室 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 こども家庭庁支援局総務課自殺対策室は共同で、こどもの自殺対策の推進のために、都道府県知事、指定都市市長、都道府県議会・指定都市議会議長、都道府県・指定都市教育長、市区町村長、市区町村議会議長、市区町村教育長に宛てて、3大臣からのメッセージを送付しています。

その中で、以下の4ポイントが強調されています。

- ① こどもの自殺対策緊急強化プランに関する概算要求のポイント

- ② 「こども・若者の自殺危機対応チーム」について
- ③ 1人1台 端末等を活用した「心の健康観察」の推進
- ④ ゲートキーパーについて

③「心の健康観察」については、令和5年度補正予算案として10億円を計上しています。

そこで、みなさんにお誘いです。

私たちと一緒に、この取り組みを実践してみませんか？

理由 その1

文科省等の通知では具体的な実施方法が書かれておらず、各学校の努力に任せています。

今から方法を模索する手間をかけるよりも、神川中学で完成しているノウハウ（導入からアセスメントまで）があるので、それをそのまま活用して頂けます。

理由 その2

各学校でバラバラの方法で実施するより、統一された規格で実施したほうが、学校規模、地域特性、学年による差異がわかりやすく、各種統計も取りやすいです。

また同じ方法で実施している学校が集まり、内容を吟味することで、実施内容の長所と短所が明確になり、その解決方法やアップデートも精度の高いものにできます。

学校現場にいる教職員が作り上げていくものなので、アカデミックな統計や理想論や机上の空論ではなく、学校内で実現可能なものに仕上げられます。

● 最後に

自殺予防健康観察の取り組みは、それで褒められたり、成功して称賛されたりすることはありません。

児童・生徒は自殺しないことが当たり前で、いくらこの取り組みが成功していても、子どもは自殺しないという、当たりの結果しか出せないからです。

ですが、その当たり前が、実は凄いことなのだと思います。

飛行機は空高く飛んでいるのが当たり前、しかしその当たり前を実現させているのは、整備士や管制塔、乗務員、パイロットなど多くの人の努力の積み重ねです。

子ども達が自殺しないで生きているという当たり前を実現させるのは、家族と私達学校関係者の努力が必要不可欠です。

その努力のひとつとして、この方法をやってみませんか？もちろん、この方法で100%自殺を食い止めるのは不可能ですが、最後にこのお話を教訓にして終わりたいと思います。

ハチドリの一としずく



(全長 6 cm、体重 2 g 弱)

これはちいさな力の大切さを教えてくれる、南米アンデスの古くて新しいお話。

森の火事に、一滴ずつ水を運ぶ小さなハチドリに対して、森から逃げた大きな動物たちは「そんなことをして何になるんだ」と笑います。

小さなハチドリは

「私は、私にできることをしているだけ」と答えました……

自殺予防健康観察の取り組みは、まさにこの「ハチドリの一としずく」だと思いました。

日本中の学校の先生のひとしずくを集めて、子どもの自殺という恐ろしい炎を一緒に消しませんか？

タブレット(学習端末)を使った自殺予防健康観察の取り組みに興味を持って頂けた皆さま。

児童・生徒の自殺予防に関心のある皆さま。

自殺というキーワードで、今、パッと頭の中に浮かんでいる子がおられる皆様。

学校で子ども達を見守る私達が力を合わせて、ひとりでも多くの児童・生徒を自殺から守りましょう。

ひとつでも多くの学校、ひとりでも多くの先生方とチームを組み、児童生徒の自殺防止に取り組みたいです。

※ お問い合わせ先 神川中学校

- ◆ 自殺予防健康観察 全般について
支援教育部 部長 宮迫(みやさこ)先生
 - ◆ 保健室関係について
養護教諭 松田先生 木村先生
 - ◆ 古川についてのお問合せ
スクールカウンセラーコーディネーター 近藤先生
- *スクールカウンセラー 古川秀明
神川中学には水曜日に勤務しています

神川中学校 〒612-8487 京都市伏見区羽東師菱川町741

TEL:075-934-1505 FAX:075-934-1528

E-mail: kamikawa-c@edu.city.kyoto.jp

最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

シンガーソングカウンセラー
ふるかわひであき